



川地さんってどんな人？

お仕事の教え方が大変上手で、無駄がない。そして、とてもさわやかな青年です。私は川地さんに教えてもらえてとても幸せに思いました。川地さん、これから私たちや利用者の皆さんのために、お身体を大事して、頑張ってくださいね。

ほほえみスタッフや地域の方が語る川地さんのホント。



ボランティア: 本多とく江さん

頭が良くて、人好きがする人です。



利用者: 村瀬登子さん スタッフ: 村橋紗季

でも時々落ち着きがない。



スタッフ: 渡邊太良

運動メニューや脳トレを提供する際、常に声を出してその場を盛り上げてくれます。また、分からないことがあれば、親切に教えてくれる優しい人です。本当に頼もしい先輩です！



ほほえみ あるけるデイサービス



「あなたとあるく」を理念に、利用者さまが何歳になっても自分の足で歩けるようにと、スタッフが一緒になって日々運動を行っています。内装のコンセプトは「ひらばりのハワイ」。アロハシャツを着たスタッフがお出迎えし、施設内には砂浜(砂場)もあります。本物のハワイのように、みなさんが「ぜひ行ってみたい」と思ってもらえる施設を目指しています。

〒468-0020 名古屋市長天白区南2-1002-1
TEL 052-807-4141 <http://hohoemi333.jp>



ほほえみ介護チャンネル

動画配信中! チャンネル登録よろしくお願ひします ▶



川地 直人 (かわち なおと)

愛知県豊田市出身

ニックネーム: わっち

特 技 : 元気な声であいさつをすること

趣 味 : 砂場やレッドコードなど、
デイサービスの運動全般

好きな言葉: できるかどうかじゃない。
やりたいかどうかだよ。

尊敬する人: 母

好きな食べ物: ピザ

好きな場所: 大型書店

個人的な目標: 本場ハワイに行ってみたい

休日の過ごし方: コメダでほんやり読書

ブログやってます!

ブログタイトル:
「わっちの あっちこっちで輝きキャッチ!!」
<http://blog.livedoor.jp/kawachi33333/>



プライベートの私

私のプライベートを
ちょっとだけ
ご紹介します。

仲間とゲーム



ボードゲームやカードゲームが好きで、ほほえみのスタッフともよくやります。施設長が集まる研修の昼休とか、スタッフ同士で誕生日を祝う会とか。例えば『ドミニオン』は、自分の領土を拡張していくゲームなんですけど、そういうのを対面でワイワイ言いながら、負けてもそれが笑いになるのが楽しいです。

コメダで読書



時間があるとコメダに行って、ナポリタンとコーヒーで読書します。最近読んだのは、漫画では『舞妓さんちのまかないさん』。ご飯が美味しそうで、京都の舞妓さんの世界が見られるのも面白いです。小説では『麦元三歩の好きなもの』。図書館で働く主人公の日常の話なんですけど、低刺激でじんわり温かい感じが好きです。

川地直人

ほほえみ
あるける
デイサービス
管理者

ほほえみ選手名鑑

母子家庭ながら、何不自由なく育った。

単にラッキーで済ませてはいけなかった。

母親との2人暮らしだったものの、周囲の大人に恵まれ、これといった経済的な我慢の必要もなく育った川地直人。それがいかに恵まれた環境だったかを、大学で社会福祉を学ぶ中で知り、社会に貢献したいと考えようになります。しかし介護職についた当初は、それほどの熱意はなかったと川地。そんな彼が、今のような情熱を持つきっかけは何だったのでしょうか。



原点

小学5年で父親がいなくなり、母親と2人暮らしになった川地。母親は仕事で忙しかったものの、祖父母が何かとよく面倒を見てくれ、親戚のおじさんやおばさんも、プールに連れて行ってくれたり、畑と一緒に野菜を取ったりと可愛がってくれました。さらには母親の職場の人たちからも、食事に招かれたり、誕生日や入学のお祝いをもらったりと、周囲のたくさんの人たちが親代わりとして川地を気遣ってくれる、そんな環境で育ちました。

ターニングポイント

大学で社会福祉を専攻した川地。貧困と社会保障について学ぶうち、ひとり親で自分が何不自由なく育ったのは、実は特別なことだったと知ります。自分は社会保障の制度を利用する必要なく育った。でもそれを「たまたまラッキーだった」だけで済ませてはいけない。自分も社会に貢献したい。そう考えるようになります。自分が育ってきた環境、自分に与えられた大学で福祉を学ぶという機会、それらを考えたとき「何かやらなければいけない」という思いが生まれました。

ほほえみ入社

川地は、就活生としてほほえみグループの会社説明会に参加。そこで利用者さんの夢を叶える動画や、ご家族からの感謝の手紙に接しながら、人生の晩年が幸せだと思える社会になれば、若い人も未来に希望を持って生きていける。高齢者も若者も、みんなが幸せになれる。そう感じ、川地の中で「何かやらなければいけない」と「介護」がつながりました。

とは言え、入社当時は介護に燃えていたわけではなかったという川地。意識が変わったのは、2年目の秋でした。人事課とデイサービスの仕事を兼務していた当時、川地は、内定式の司会を務めることになっていました。けれども内定式の日の直前、祖母の容体が悪化。「何かあったらいけないから」と会社の人が気遣ってくれ、結局川地は、内定式の日に休みを取りました。その日は一日、祖母に付き添うことができ、そして夜中に見送ることになりました。翌日、お通夜までの時間、デイサービスの仕事に行った川地は、利用者さんから「今日元気ないね」と声を掛けられます。そのとき川地は、自分も利用者さんに見守られていると思いました。子どもの頃は親代わりの人がたくさんいた。そして今は祖父母代わりの人が、ここにたくさんいる。そう思ったと言います。このとき介護に対する意識が変わると同時に、大事な日に休みを取るように勤めてくれた心遣いに触れ、会社にも愛着を持つようになりました。

今後

入社3年目の終わりからは、デイサービスの仕事一本となった川地。現在は「あるけるデイサービス」の管理者として働いています。コロナ禍で中断していたバス旅行を復活させ、今後も毎年一回の実施を目指します。今年参加できた方は来年も、参加できなかった方は来年は参加できるようにと、日々の運動のモチベーションにつなげたいと考えています。施設名を「あるけるデイサービス」と平仮名にしているのは、身体機能としての「あるく」と、夢や目標に向かってスタッフも共に「あるく」というふたつの意味を持たせているからだと言います。利用者さんが、楽しいからあそこに行きたい、あそこで運動するのは楽しいと思ってもらえるように、「介護」で心の距離を近づけながら、「一緒にあるいて」いききたいと話します。

川地直人 自筆年表

1995年(0歳)
愛知県豊田市で生まれる。祖父母の膝の上にいるとご機嫌だった。

2008年(12歳)

中学入学。特に興味があったわけではないが、とにかく走らされると聞き、なぜかやってみるとその気になり、卓球部に入部。以降、大学まで卓球部に所属。

2011年(15歳)

高校入学。自転車通学で、帰りに卓球部の友達と、道路脇の温度計が何度か当てるゲームを毎日繰り返す。

2014年(18歳)

大学入学。バイトで個別指導の学習塾の先生を経験。部活帰りで眠そうな子にも来たからには楽しく学んでもらいたいと、今のデイサービスと同様のサービス精神を発揮する。

2018年(22歳)

株式会社ほほえみ入社。最初の配属が管理部人事課で、介護はしないのかと拍子抜けする。

2019年(23歳)

介護の現場が分からない中で就活生への説明がうまくできず悩んでいたところへ、週の半分デイサービスの業務をと提案され、業務に。

2021年(25歳)

人事課からデイサービス、どちらかに集中したいという思いが強くなり、3月にデイサービス専任になる。秋に管理者を引き継ぐ。

2023年(27歳)

バス旅行を復活させ岡崎へ、岡崎城や大河ドラマ館の見学、ホテルで食事、サービスエリアで買い物というルートで行く。



0歳頃の自分



学生時代



卓球部



ほほえみの仲間



愛車の前で



デイサービス

答え：「利用者さんの行きたい場所であるために」

デイサービスは、その日利用者さんに「行きたい」と言われたら、そこで終わり。だから、くだらないことでもクスッと笑ってもらえる場面をつくることを心掛けています。今日も皆さんの笑顔のためにしゃべります！